

外房法友会

法政大学校友連合会外房支部
外房法友会会報
第 8 号

発行所 法政大学校友連合会外房支部
外房法友会

発行人 渡辺光夫
〒297-0016 茂原市木崎118-27
TEL 0475-22-5215

外房法友会設立総会



平成二十二年十月二日、茂原市の「割烹一茂」にて『外房法友会』設立総会を開催しました。岩部校友連合会会長、坂本事務局長にもご臨席いただき盛大に催されました。初代会長に、渡邊光夫（経卒）、顧問には藤平輝夫勝浦市長（法卒）・太田洋いすみ市長（経卒）を選出しました。

総会後の懇親会では、話はずみ、気がつくくと3時間を経過してまいりました。抽選会の後、皆で肩を組み校歌を合唱しました。指揮はいすみ市在住の、元法政大学応援団長田中直宏君がつとめました。皆、来年の総会にも必ず参加するぞ、との約束のもと散会しました。外房法友会の区域内には450名の卒業生が登録されています。今後、より多くの校友が参加する会となるよう役員一同努力をしていくつもりです。また、近い将来千葉全県支部が設立されることと思われませんが、その際には、外房法友会の会員が先頭に立って活動をしていきたいと思えます。校友各位におかれましては今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



『前勝浦市長藤平輝夫 先輩の労をねぎらう会』

平成二十三年七月九日開催

外房法友会の顧問である藤平輝夫先輩は、三期十二年にわたり勝浦市長を務められました。この間「勝浦ビッグひなまつり」の開催など勝浦市の活性化、発展のため多くの功績をのこし、本年三月ご勇退となりました。藤平先輩は我々外房法友会会員の誇りであり、今後、藤平先輩を目標として政治の道に進もうとする人が数多く出るのでないかと思えます。

そこで、表題のような会を本年七月九日の総会終了後に開催する事と致しました。法政の卒業生ではない政治家の方からもぜひ参加したいとお申し出があり、これも藤平先輩の政治家としての実績とのお人柄が尊敬されているからであると思われまます。

当日は、ぜひにぎやかな会にしたいと計画していますので、多くの校友の参加をお待ちしています。同封の総会案内をご覧いただき、返信ハガキにて出席の連絡をお願いいたします。

会報発刊にあたり

藤平輝夫



このたび、法政大学校友連合会外房支部『外房法友会』会報が発刊されますこと、心からお喜び申し上げます。

昨年十月二日に設立総会が開催され、新たに法政大学校友連合会外房支部『外房法友会』が誕生いたしました。また、今回、会報が発刊されることとなり、関係各位のご尽力に対しまして、心から敬意を表します。

法政大学は誇りある歴史と伝統をもち、「学則」の第一条に謳われる通り、「民主主義の精神に基づき」、あまたの「公共の福祉に献身する」自立した人材を送り出しています。私たちは、進取の精神と学の自由の学風法政大学に憧れ、良き師、良き友に恵まれ大学時代の青春を謳歌してきました。そして、温暖な気候に恵まれた自然豊かなここ外房の地にあり、心の故郷母校帰りの会が「法政大学校友連合会外房支部」であります。母校に誇りを持ち、各分野で働く、また年代の異なる校友が懐かしいオレンジの旗の下一堂に会し、謳歌した各々の青春を語り合う懇親と研鑽の集い、法政に学ん

だ者の心の交流の実感できる素晴らしい会であります。私たちにとりまして、かけがえのないこの外房法友会の益々の発展を念じ、微力ではありますが努力してまいり所存です。

また、法政大学におかれましては、昨年、創立百三十周年を迎えました。変化を恐れず、常に挑戦し続ける「歴史と伝統に甘えることなく、「進取の気象」をもって新たな改革に挑みつつけています。校友の一人として、母校の発展を本当に嬉しく思っております。

今後は、この会報発刊を契機に、校友相互の親睦がより一層図られますとともに、活発な校友会活動を通して、我らが母校法政大学の興隆発展に寄与されますようご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

(昭和三十三年・法卒)



外房法友会の発展を祈念します

秋葉豊稔

(昭和39年社卒)

茂原市法目

損害保険ジャパン代理店
損保ジャパンひまわり生命保険代理店

中村保険サービス

中村良逸 (昭和44年経卒)

茂原市高師392
TEL 0475-22-2853

今こそ、支え助けあいの国づくりを

いすみ市長 太田洋



人口減少期に入った今日、私たちは経験したことのない時代をどう生きていくかが大きなテーマとなつていきます。昭和四十年代以降、急成長した日本経済、国民の所得も上がり、一時期マスコミの言葉によれば、「一億総中流社会日本」と言われてきました。私は、日本の成長は永遠であり、これと同様に人口もまず減ることはないと思じてきました。

しかし、昨今の少子化、高齢化によつて、確実に日本の人口は減少しています。多くの市町村が自然増減では減が多く、これを補うための社会増、いわゆる人口増のための施策を競っています。私の住むいすみ市も同様に、社会増をいかに確保するかに力を入れていきます。この努力の結果、合併して五年目でようやくやぐ社会増の傾向が見えてきたことは、施策によるものと評価しています。

しかし、これから更に進行する少子化、高齢化の中で、確実に人口減少を避けて通れなくな

化の進む今日、地域の中でのつながりの欠如が言われてきました。が、いよいよ真剣に取り組み課題といえます。テレビでもしばしば、地域のつながりをどう取り戻すかについて、報道されています。このままの出生率でいくと、二十一世紀中頃の二〇五〇年には、日本の人口は九〇〇〇万人になると見込まれています。人口減少を迎えての日本、私たちは生活のスタイルを考える時を迎えたように思います。

加えて、この度の震災と原発の事故によつて、私たちは改めて今までの生活のありさまを見直さざるを得ないという戦後の歴史の中で大きな転換期を迎えたように思います。自然の力には、人知が及ばないことや、原発事故で失った損失には言葉を失うばかりです。戦後の荒廃の中で立ち上がり復興し経済発展した日本、そしてバブル経済の崩壊、大震災、原発事故という出来事の中で、今、改めて安全で豊かであることに暮らせる日本をどう作っていくかが問われて

います。それにはまず、被災地域復興と未来に向けての安心安全な国土づくりと技術立国日本の経済の再生を図りつつ、支えあい協力しあう社会をつくらねばと思います。大震災で改めて人々の支えあい、助け合いの気持ちが行動に始めようとしている今、是非国をあげて取り組むべきテーマではないでしょうか。同じ地域に住みながら、孤立無援の社会であつてはならないと思うばかりです。かつてはならないと思うばかりです。かつての日本のような地域の中で、皆が豊かで幸せに支えあつたり助け合つたり協力しあう社会の再構築に今、国をあげて取り組むべきチャンスを与えてくれたように思う日々であります。

(昭和四十七年経卒)

測量設計全般・土地建物登記

株式会社三陽測量設計

古山弘 (昭和49年工卒)

長生郡睦沢町小滝 475-1
TEL 0475-44-1869

広告募集

1 枠三千元です。ぜひご協力を
申し込みは8面の《連絡先》古山まで

夷隅郡市の芭蕉の句碑 渡辺光夫

芭蕉の句碑等は全国で三千二百三十基あり、芭蕉の俳句九百八十二句（岩波文庫「芭蕉俳句集」）のうち約五十二パーセント、五百十四句が句碑として建立されている。千葉県内でも八十二基ある。

拙書「長生郡市の句碑散歩」で長生郡市には三基あることは述べたとおり。今回は夷隅郡市について紹介したい。

いすみ市

岬町和泉（飯縄寺）本堂前左
○古池やかはつ飛こむ水の音 芭蕉翁

昭和三年（一九二八）十一月十日

井上章田建立

伊藤松宇書

150×80

岬町鴨根（清水寺）本堂前

碑群の中

○ここらしに岩吹とかる杉間哉 芭蕉翁

文政九年（一八二六）

里丸社中建立

90×45

大原町下布施（日置清尚氏宅 入口左）

○いざともに穂麦くらはむ草枕 はせを

天保十一年（一八三九）十二月

日置桂紫建立

日置久四郎金砂書

110×100

勝浦市

浜勝浦（本行寺前、本堂前右）

○御命講や油のやうな酒五升 はせを

文久元年（一八六一）

沈流亭一澄建立

菊守園見外書

145×40

御宿町

新町（浅間神社）鳥居先

○眼にかかる時や 翁

明治十七年（一八八四）五月

本吉蓮蕊建立

三森幹雄書

180×110

（数字の上は碑の高さ下は幅）
（昭和三十二年経卒）

法政大学の四年間 白石秀正

入学したのは七十年安保の二年前。飯田橋駅を降りて学校に行くまでには、各派のビラでいっぱいになる。確かにカルチャーショックをうけた。学校につけばヘルメット姿の連中がアジ演説。傷害事件も数知れず。五月の連休前に全学ロックアウト。夏休み明けからは、日曜祝日もなく、翌年の入学試験まで授業が続く。

二年になったとき、聴講生でしたが希望のゼミに入ることができて嬉しかった記憶があります。今でもその先生の本を読みますが、すごい読書家だったと思います。四年になった夏休み明けに、学部の懸賞論文に応募しました。応募者には、外れ無し。佳作五千円でした。三等一万円も数人いました。一等、二等はいませんでした。私は勿論佳作。ゼミの三年間で、先生の学問に対する姿勢から多くのことを学ばせていただきました。四年間は安保に始まり安保に終わった時代のよう気がしますが、受けた授業のなかで、ゼミの先生は当たり前ですが、四年生になったときに、特別講師として各界の著名人の講義を受けることができたことは感動しました。三池炭鉱争議時代の総評議長の講義の最中に中核派が数人入り込んできて、講師のマイクを採り上げてアジ演説を始め、そのマイクを取り返して講義を再開。人間に余裕がありましたね。話の内容も現実味がありおもしろかった。ジャーナリストの話も人気があつて立ち見の状況でした。

卒業後、当時のメンバー十数人ですがいまだに毎年欠かさず同窓会を、幹事の地元で開催しています。三十年以上続いている行事です。四年間の学生生活が今でも思い出たって眼に浮かびます。新しい建物になってから一度も行ってないのに近いうちに訪ねたいと思います。
（昭和四十八年経卒）

「いま、私の学校では」

今井富雄

今回も会報への寄稿の機会を得た。ここ数回は連続して仕事柄、教育の流れや勤務校の様子を書いていく。学校の中の様子を多くの間から知っていた。私はいま、前任校から学校便りを月二回発行するようにしている。めまぐるしく変わる教育情勢や子どもたちの活動の様子を、保護者や地域住民に知っていた。き、学校の現状理解と支援をお願いしたいという願いからである。茂原小学校の新六年生の子どもたちが、昨年度までの「朝のボランティア清掃」を、今年度も引き継いで活動している。で、半年も前の内容ではあるが、「朝のボランティア清掃」記事にした学校便り『茂小時報』の記事を掲載させていた。茂原市内の方です。ご容赦ください。

『十年偉大なり。』ボランティアの心が受け継がれています。十一月上旬のある日、校長研修会で、「イエローハットの創業者であり、「掃除」を続けること

で企業経営のみならず、学校教育や社会に大きな影響を与え続けている。鍵山秀三郎さんの講演を聞くことができました。十年ほど前だったと記憶しています。市内の小学校を会場に「トイレ掃除を通して健全な子どもたちを育てよう」という『便強会』が開かれました。その活動の創始者が鍵山秀三郎さんなのですが、話のテーマは、「人間は、小さな努力であっても、続けていくことが大きな成果（見返り）を求め、大きな成果（見返り）を求め、一つ拾えば一つだけきれいな行なうことが大切である。この努力の成果は、人間として成長する姿に現れてくる。」というものでした。その中で、「目の前に落ちていくゴミを拾うこと（汚れているものをきれいにする）は、特に「誰の仕事」である」と特定されていない。しかし、「この「誰の仕事でもない仕事」を私の仕事としてやっている人のいる所（学校・会社・家庭）は、よく成っていく（成長していき）。」一つ拾えば一つだけきれいな行為の切なことは、その行為の踏み出す勇氣である。一歩を踏み出さなければ、前に進むことはできないとお話しされました。加えて、この行為は、家族や同僚にとっては、あつかましい行為であったり、陰険ともとられたりすることがあります。しかし、その行為を積み重ねていかなければ社会（学校・会社・家庭）は変わっていかないのですとも話されました。

学校では、いま校地を取り巻く木々の葉が色づき、落葉の季節を迎えています。毎朝、児童や保護者と職員の手で一生涯懸命に落ち葉を掃き集めてくれます。毎朝、正門付近、玄関前の庭を中心に掃除する活動は、六年生児童により十年ほど前から引き継がれているボランティア活動です。活動は月別にクラスで分けられています。の、参加体制は強制しているものでもなく、登校後に時間のあたる児童が参加している活動です。玄関までのアプローチに、きれいに掃かれた後の前庭はすがすがしさを覚えます。『十年偉大なり、二十年恐るべし、三十年で歴史になる。』まさに偉大な活動を重ねている茂原小学校の子どもたちです。自主的・主体的に活動する機会も、一方では親としても、その場を提供する機会も少なくなりつつある今、勤労への意欲が失われてきています。家でも学校でも、たとえば掃除をしても、「汚れた場所をきれいにして、とても良い気持ちになりました。」という思いをする児童はどれくらいいるのでしょうか。ある児童は、私に「自分の部屋（自宅）はそうじするけど、教室そうじは好きではないです。」と話してくれました。残念ですが、この言葉が子どもの本心なのでしようか。鍵山さんは、「今だけ、自分だけ、私さえよければ」の人間は利根的な人間になってしまいます。犯罪者が増えたり、社会が乱れたりしてしまふ。過去に感謝し、未来への責任を持てる人にならなければならない。私たち大人

学校雑感

野口一展

が、まず足下のゴミを拾う実践をしませんか。勇気を持ってその第一歩を踏み出しませんか。ゴミを拾う人は、不思議とゴミを捨てないとも話してしまいました。六年生Sさんは、「頼まれて掃除をしているのではないです。今は葉っぱが多いから、六年生全員で掃除するようにしています。」と話してくれました。うれしく、やさしい気持ちになりました。

(二〇一〇・一一・一五
 茂小時報より)

(昭和五十一年法卒)

この春の人事異動で、学校現場を離れることとなり、「学校」を外から見る機会を得ることとなった。現場を離れると、今まで見えていなかったものが急に見えてくる。特に教師という仕事がいかに独りよがりであるの常識とかけ離れていることが多いかということである。

「学校」は多くの人たちによって支えられている。たとえば、保護者はもちろんのこと、教育委員会や市町村の各行政担当の人たち、そして地域の自治会など多くの人たちが学校を支援し、応援しているのである。学校で働く教師たちは、そのことを普段あまり感じないことが多い。なぜなら、教師たちは学校という狭い社会のなかで、子どもたちを相手に教えること、日々奔走し、外の社会に目を配ったり、学校の有り様を考えたという余裕は全くないのである。世の中では、「先生は世間知らず」とよく言われるが、それも職業柄仕方のないことかもしれない。しかし、それでは社

会人としては通用せず、いつまでたっても真の「開かれた学校」をつくることはできない。世の中のこともっと知り、より良い学校をつくるには、教師の社会研修を充実させる必要があると私は考えている。

教育の理論や方法についての研修はかなり充実してきているものの、社会の人たちの考えに触れるには、共に働くことが必要である。それには短期間ではなく、三ヶ月とか半年は学校現場を離れた社会研修を義務化することが必要ではないだろうか。

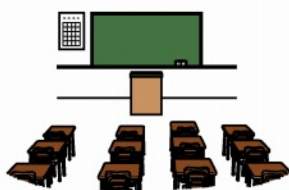
一方で、学校を支える人たちも学校のことを知らなすぎることも多い。普段は学校のことについていろいろと関心を向けてくれるが、学校に実際に足を向けて見に来る方は少ない。今、学校では、多くがオープンスクールを実施しており、だれでも学校に来て自由に授業を見学できる機会を設けている。ぜひ、学校に多くの人が来て、授業や子どもたちの様子を目の当たりにして、学校のよい点、改善すべき

点を指摘していただきたいものである。

さて、学校現場を離れて見えてきたもののなかで一番は、実は自分が学校が大好きでも、早く学校現場に戻り、子どもたちと話をしたり、運動したりしたいという気持ちは何より大きいことである。

自分は教師であり、子どもたちから「先生」と呼ばれる存在で有り続けたいという、そんな自分がいることに気づいた今日この頃である。

(昭和五十五年法卒)



継続は力なり

今井智子

私は、大多喜高校に勤務して今年で四年目になります。本校は、明治三十三年（一九〇〇）年四月三十日に千葉県大多喜中学校として創立され、平成二十二年十一月四日には創立一一〇周年記念式典を挙行した、歴史と伝統のある高校です。生徒は礼儀正しく、何事にも一生懸命に取り組み素晴らしい生徒です。

平成二十二年十二月二十八日には、本校の「いすみ鉄道・地域とともに」の取組が千葉日報社主催の「二〇一〇千葉教育大賞」を受賞しました。幸い、平成二十二年八月六日にいすみ鉄道の存続が決定したこともあり、通学の足を守ろうという生徒の、ここ数年に渡る、いすみ鉄道存続への地道で継続した取組が高く評価されたのだと思います。生徒会は、総元駅や車両の窓の清掃や花壇の植栽整備、沿線の菜の花の種まき、中高生いすみ鉄道存続プロジェクト会議、大多喜駅のクリスマスツリー設置などを行いました。いすみ鉄道対策委員会は、東総元駅、小谷松駅、大多喜駅の清掃を行いました。マンドリン・ギター部や吹

奏楽部や演劇部は、列車内演奏や演劇を行いました。生徒が自分のできることは何かをよく考え、実践できたことはとても立派なことだと思えます。この賞は、本校にとっても名誉なことであり、大多喜高校の職員で本当によかったと思えました。

私は、平成二十年から、マンドリン・ギター部の顧問となり、この年から毎年、いすみ鉄道列車内演奏会（マンドリン・ギター列車）を行っています。六月の第二土曜日に、マンドリン・ギター部の二、三年生がマンドリンとマンドラとマンドセロとギターで演奏します。昨年は十五名で、十八曲演奏しました。今年も第四回となり、六月十一日の土曜日に大多喜駅を十時十四分に出発し、上総中野駅へ、さらに大原駅に行った後、大多喜駅にもどるコースで約二時間、十名で二十曲演奏する予定です。古賀政男さんが作曲した「丘を越えて」をはじめ、皆さんに親しみのある曲を演奏するので、毎年、多くの方々に喜んでいただいています。生徒も日頃の練習の成果を発揮できるので、とて

嬉しく思っています。このマンドリン・ギター列車は、生徒の通学の足であるいすみ鉄道を存続させるための活動の一つとして、大いに貢献しています。来年も行う予定です。是非お越し下さい。音楽を聴きながら、車窓から紫陽花や緑の山々や田園風景を眺めてはいかがですか。お待ちしております。マンドリン・ギター部は、明善祭や大多喜町特別養護老人ホーム演奏会や南総地区高等学校音楽会や千葉県高等学校文化祭連合音楽会でも、毎年演奏しています。私は指揮者として、常に美しい音楽になるように心がけています。

私は、文学部日本文学科益田勝実ゼミ卒業生で、国語の教員です。よき師、益田先生に出会い、今日の私があります。今年の四月に教え子が法政大学に入学しまし



た。これからも優秀な生徒を法政大学に送り続けたいと思います。（平成元年・文卒）

※ マンドリン・ギター列車は六月の第二土曜日です。まだまだ間に合います。ぜひ出かけてみませんか。

東日本大震災お見舞い申し上げます

3月11日発生した史上最大級の地震は、東北、関東の広範な地域に甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をご祈念いたします。

法政大学校友連合会外房支部外房法友会 会長 渡辺光夫



法政大学校友連合会外房支部 外房法友会 顧問・役員名簿

役職名	氏名	卒年・学部
顧問	藤平 輝夫	1958・法
顧問	太田 洋	1972・経
会長	渡辺 光夫	1957・経
副会長	秋葉 豊稔	1964・社
副会長	目良 俊徳	1971・法
幹事長(総務担当)	古山 弘	1974・工
幹事(会計担当)	今井 富雄	1976・法
幹事(事業担当)	矢沢 邦公	1977・営
幹事(広報担当)	渡辺 康志	1979・工
幹事(事業担当)	屋代 良洋	1980・経
幹事(広報担当)	野口 一展	1981・法
幹事(事業担当)	成嶋まさる	1982・法
監事	佐久間 武	1964・法
監事	日置 與嗣	1965・工

会に対するご意見・ご要望等があれば下記までご連絡下さい

連絡先

〒299-4415 睦沢町小滝 475-1

(株)三陽測量設計内 古山弘

TEL 0475-44-1869

FAX 0475-44-1959

Eメール h.furuyama@sanyou.sakura.ne.jp

編集後記

経済状況のきびしい時
代が続きそのおかげで
校友の皆様に留まらな
しは健康に留意し
活躍されまします。
いたします。

(古山)